

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!

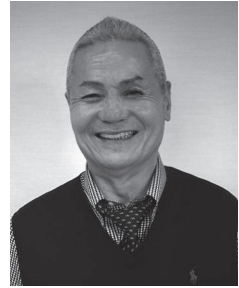


今や潮騒ジョブトレーニングセンターには不可欠な存在となった感のある潮騒エイサー隊。女性メンバーも加わって男女混合の本格的な編成となり、出演要請も多くなりました。その活動は東北地方にもひろがり、仙台市の高齢者福祉施設への慰問活動もすっかり定着し、2日間で3公演のハードな日程をこなすなどして利用者の方々によりこばれました。(4,5ページに関連記事)

2018

6

自己表現は心を 豊かにしてくれる



記録的な早さで梅雨が明けたと思ったら、台風の影響でまた梅雨に逆戻りしたような天候が続きました。体調管理が難しい時期ですが、みなさまお変わりありませんか？ このところ潮騒通信がみなさまの手元に届くのが翌月になってしまっていることを、まずもってお詫びします。潮騒では早くから情報発信に力を入れ、とりわけニュースレターは私達の活動状況をお知らせする重要な媒体として独自性を追求しています。表紙と背表紙はカラー刷りとして視覚的な訴求力をアップさせ、コンテンツ(記事)もできるだけオリジナルな企画ものを配置しています。潮騒通信も月刊体制になって8年目、読者も多くなりました。あちこちで『どっこい』、毎回楽しみに読んでるよ」「栗原さん、頑張ってるね」などと声をかけていただく場面が増えました。苦労が報われる思いで、私にはとても良い励みになります。

その半面、このところ私は今月の巻頭言に何を書こうか、今回は何をテーマにしようかと、あれこれ悩むようになりました。以前は自分の日常のことや日々の出会い、ふと気づいたことなどができるだけ手帳にメモしておき、これを素材にして比較的、自由気ままに自分の意見や心に浮かんだ事柄を随想として書いてきましたが、最近はなかなか思うに任せません。できるだけ肩の力を抜いて自分の素直な思いや心情を文字に託そうと思うのですが、うまく言葉が出てこなくなりました。依存症という特異な病気を持つ者の戯言ぐらいの気持ちで綴っていたものが、最近は柄にもなくプレッシャーを感じるようになったのです。もちろん75歳という私自身の老いも影響しているでしょう。ともすると私の思いを素直に反映させたオリジナルな色合いが薄くなり、世間によくある社会批判や時評のような、鼻につく“生意気さ”が出ていないか、という懸念さえも抱きます。私たちアディクトは時として、予期しない傲慢な自我が頭をもたげることがあります。なので、自分自身へのケアを忘れてはならない、と自戒を込めて思います。

ご承知のように私は下手の横好きで俳句をたしなみます。このため長く慣れ親しんでいる俳句の方が自己表現としてはぴったりきます。どちらかというと、エッセイ(散文)よりも韻文の方が得意で、性に合っている感じがあるのです。私は過去に俳句と出合ったことで随分と救われ、自分の回復にプラスの効果を得てきました。この経験を基に、潮騒の仲間や受刑者の皆さんにも俳句づくりを推奨し、ご承知のように潮騒通信には俳壇を設けています。私は文学などという大袈裟な括りではなく、それぞれが得意とする表現分野に仲間達がどんどん挑戦してほしいなあと願っています。もちろん言葉の世界に限らず多様な自己表現は、その技量(レベル)はどうであれ、心を豊かにしてくれます。そうした判断から潮騒JTCでは、国民的な娯楽として人気の高いカラオケ文化に着目し、4月から専門家の講師を招いて音楽療法の「ミュージックケア・プログラム」講座を設けています。先輩格の潮騒エイサーが良い手本ですが、歌や踊りも立派な自己表現です。こうした取り組みにもご注目ください。

(センター長 栗原 豊)



潮騒 人間塾

白田美鶴さん

(詩人、NPO法人潮騒JTC理事)

人間は、ほどほどで生きていける方がいい
人生は奪い合いよりも与え合いで

今年度第3回目となる潮騒人間塾が6月9日、鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館3階のダイケアフロアで開かれました。今回講師としてお招きしたのは、NPO法人・潮騒JTC理事としてお世話になっている白田美鶴(はくた・みつる)さん(62歳)です。入寮者にとって、回復後の生きるビジョンにつながる大事なヒントをいただきました。

白田さんは銚田市に隣接する茨城町の潤沼湖畔で、わずかな年金だけで一人暮らしを続けています。その風貌から現代に生きる仙人のようなイメージを抱かせますが、社会や人間を見つめる視線は確かなもので、潮騒では折に触れて依存症者の生き方に参考になる助言をいただいております。

白田さんは地元の中学校を卒業して上京し、工場で働きながら苦学して夜間高校を卒業。絵画を志してデザインの勉強をし、その関係の仕事に就きましたが、自分の限界を知って帰郷後は細々と自営でリサイクルの仕事をしながら、晩年は母親を介護して最後を看取りました。暮らしぶりはとても質素で、できるだけ自然と共生した生活を心がけています。

その一方で、自然や人間、社会などを子供のようなイノセンスな眼差しで見つめ、素晴らしい詩作品に結実させている自然派の詩人でもあります。優しさと人間愛にあふれる作品は詩壇でも評価されています。宮沢賢治のように自分を棚に上げずに物事をとらえ、できるだけ自然に沿った生活を模索し、無理のない生き方を実践しています。その意味では、カネまみれの現代の風潮に対する鋭い批判者でもあります。

今回は「私の考える人生と生」のテーマで、①人生は大小の変化の連続 ②人生はバランス ③人生は奪い合いより与え合い ④人生を楽しむには自己表現・学び・運動、個と公の居場所をつくる ⑤自然と人生、という流れに沿い、人柄を感じさせる優しく平易な語り口で約1時間にわたり講演していただきました。

白田さんは「競争社会の中で人生は奪い合いになりがちだが、他より金持ちになれば幸せか、アスリートとして勝者になった者が本当に幸せなのか?」と問いかけ、その際限のない欲望や過度な生き方によって生まれる負の部分にも目を向けるべき、と指摘。「奪い合いではいつも心が休まらない。むしろ与え合いによって、人間はそんなに頑張らなくても、ほどほどのものがあって生きていける方がいいのではないか。その方が生き生きとした人生になるし、人間らしく人生を楽しめる。まさしく栗原センター長は潮騒での人助け事業によって、それを手本として見せてくれている」と話してくれました。(潮)



潮騒エイサー隊 仙台施設慰問ツアー感想文

潮騒エイサー隊が6月8、9日の日程で、宮城県仙台市の福祉施設にエイサー慰問ツアーをしてきました。これまでも取り組まれている、スタッフの親族が経営する老人ホームへのエイサー慰問活動で、利用者のお年寄りに喜ばれています。今回も1泊2日で3施設を慰問するという強行日程でしたが、女性陣には収穫が多かったようです。今回の参加メンバーから、以下のような感想文が寄せられました。



仙台慰問で 脳梗塞で倒れた叔父にも会えた

みなさん、こんにちは。潮騒エイサー隊のエンです。今回、僕は仲間達と一緒にエイサーでの慰問活動で宮城県仙台市に行ってきました。仙台は僕が幼少期から大人になるまで育った、思い出深い街です。この地にある老人ホームで、利用者のお年寄りのみなさんにエイサーを披露してきました。訪れた老人ホームは母が勤めているのと、母の父、つまり僕の祖父が入寮しています。なので会えるのを楽しみにしていました。

道中、エイサーの仲間と楽しみながら仙台入りしました。7年前の3・11東日本大震災の影響もあり、街は大きく変わっていました。実際にその光景を目にすると、やはり寂しいです。気を取り直して、母が見ている前でおじいさん、おばあさんたちにエイサーを披露しました。大盛況でした。

帰りの準備をしていると母がきて、なんと脳梗塞で倒れた僕の叔父も入寮していると聞き、「会いたい!」と伝えました。叔父は半身マヒだと聞いていたので、色々心配していたのですが、会ってみると元気に笑って迎えてくれたので、

安心しました。でも、やはり、うまくしゃべれないような所が見受けられました。「また来るよ」とあいさつして、色々な想いをして鹿嶋に戻ってきました。「来年も行くゾー!」と仲間と誓いを立て、今回の旅を終えました。ありがとうございました。(エン)



依存症への差別や偏見の視線はなく 心から喜んでくれた

今まで何度か色々な場所で演舞させて頂きましたが、2日間で3公演するのは初めて。遠距離なので時間と労力、お金を掛けて行かせて頂くので、不安や緊張感がありました。でもエイサー仲間との泊りがけツアーとあって、今まで味わったことのないワクワクした気持ちで施設を出発しました。

私は過去に一度だけ仙台に観光旅行に行ったことがあるので「懐かしいなあ」と思いながら、バスの中から風景を見渡していました。車中では仲間の誕生日のお祝い、クリーンの仲間にメッセージを順番に話していたら、あっという間に現地に到着。1回目の会場は狭い場所とは聞いていましたが、直前に女性メンバーが二手に分かれての演舞でした。これ自体今までになかったことです。初日の公演を終えて旅館に着き、温泉に浸かったら疲れが取れました。その夜の食事はハプニングありサプライズあり、仲間の誕生日や施設長のルミさんの誕生日プレゼント、仲間から親御さんから息子さんの写真入りお手紙…、「これもハイヤーパワーの計画だな」と思いました。

反省会では施設長から「もっと段取り、順番を積極的にやろう」との指摘を受け、2日目に向け自覚を深めました。女性エイサー隊の名前を、自然、天然という意味合いを込め

「ナチュ」と名付けました。女性メンバーが発足して1年未満ですが、良い名前が付いたと思います。段取りや踊る曲などに反省を加えたので、後の2公演は良くなり、3公演目が一番良く出来ました。これらを教訓に、段取りの大切さ、準備を積極的にやること、音響もしっかり覚えたいと思いました。おじいちゃん、おばあちゃん、職員さんも喜んでくれて、みんな素敵な笑顔になっていました。そこには私達を薬物やアルコール依存症だという差別や偏見をもって見る視線はなく、心から喜んでくれているようでした。私達には、このことがとても嬉しかったです。(ピノコ)



仲間と一緒に率先して 改善に取り組む事の大切さを学ぶ

仙台行きを楽しみにしていた私は朝5時起きしてウキウキでした。行きのバスの中では今日一日の意気込みを一人一人話しました。事前の練習ではちょくちょく踊りを間違っていた私。みんなには「今日は上手く踊ります!」と決意を述べたのに、本番では踊りを間違え、足も上からず、回ることもすらすらできずにガックリでした。演舞が終わり、ホテルでの夕食時には反省会が持たれ、少しがっかりしていた私でしたが、美味しい料理を食べて「よーし、明日は頑張ろう!」と気持ちを切り替えることができました。

その日(仙台初日)は奇しくもエイサー隊の仲間の誕生日でした。サプライズあり、誕生ケーキあり、ゲームありで大いに盛り上がりました。施設長からは初日のダメな点について適切なアドバイスがありました。翌日の演舞では指摘された箇所を改善し、仲間も率先して協力し合う事ができ、スムーズな演舞ができました。2番目の公演はやや傾斜のある場所だったので、回りづらさや踊りづらさがありましたが、私は声を上げて夢中で踊ることができました。3番目の公演場所ではテンションもあがり、自分の中では一番上手く回れて、声を張り上げ乗りに乗って演舞できました。(あきら)



女性だけのミーティングも濃い内容で 気持ちが一つになった

今回は2日で3公演というハードスケジュールでしたが、仙台慰問を楽しみにしていたので張り切って向かいました。初日は早朝に出発、車内で意気込みなどを話したり、笑い合ったりと和やかなムードで現地に到着。最初の老人ホームは屋外と聞いていたのですが、今まで一番狭い空間で、演者が3人も入ればギューギューという感じでした。観客(利用者)との距離は1メートルほど。女性陣は初めて半分に分かれての演舞になりました。

そして2日目。午前と午後で2演舞をこなし、風が強く斜

めのコンクリート舞台?は踊りづらかったけど、前日の反省を生かし、精いっぱいに踊りました。最後の演舞は汗臭い衣装も感じさせないくらい、笑顔でやり切りました。私の祖父は76歳。見せたかったです。そんなことを思っていたら、少し涙が出ました。私はエイサーを始めから、たくさんの人達に踊りを見せてきていますが、自分の親、息子、祖父達に見せられない現実があります。でも、そこにいる人達に、精いっぱいの姿を見せることが、間接的な埋め合わせになればと思っています。

今回、エイサー隊の仲間の親御さんが経営する老人ホームへの慰問でしたが、お母様の優しく息子の回復を見守る姿や、嬉しそうに写真を撮る姿が印象的でした。帰路には、おいしい牛タンを食べ、ずんだを食べ、長い道のりを帰ってきました。「るみの家」を退寮し、社会で頑張っている仲間も今回、一緒に行き、久しぶりにたくさん話をしました。やめ続けることの難しさ、社会の大変さを聞き、いろんな思いを抱きました。エイサーをやり続けることも私のプログラムです。これからも心を込めて演舞していきたいと思っています。一泊二日、初めて「るみの家」を離れましたが、その間、施設を守ってくれた仲間達にも感謝しています。(めい)



私の恥ずかしい失態も 仙台慰問ツアーの思い出の一つに

当日は朝6時30分の出発。長い車中もエイサーの仲間同士だからこそ面白さがあり、独特な時間だったと思います。初めの演舞は屋外で、しかも建物の入り口の駐車場を兼ねた広場でした。この日は結構、風が吹いていましたが、その中でも自分なりに声を張り上げ、微笑みながら踊りました。宿泊施設では朝6時少し前に仲間3人で温泉に飛び込み、気持ち良さを朝から清々しい気分になりました。翌日の2回目の室内演舞も、利用者のおじいちゃん、おばあちゃん、職員さんの真つすぐな眼差しを感じ、とても朗らかに気持ちよく踊れました。帰りに仙台ならではの牛タンのお店で、美味しい牛タン料理を食べられて良い思い出になりました。私には初めての体験で満足感をえました。

今回の仙台行きが実現できたのは、エイサー隊仲間、エンちゃんが存在があったからこそです。実家がお年寄りのお世話をする施設を営んでいるとの事が大きな要因でした。エンちゃんのお母さまは笑顔が可愛らしく、エンちゃんは目元がお母さんにそっくりでした。帰り道は雨に降られてサービスエリアに寄った際に、つると滑って左半身を地面に打ちつけてしまい、顔の左下に切り傷をつくってしまいました。私の恥ずかしい失態ですが、これも仙台の思い出の一つになりました。(くま)



音楽療法プログラムを実施 ～演歌歌手の川島有紀さん(行方市)を講師に月に2回講座開く

潮騒JTCでは今年度新たな試みとして、毎月2回(第2、第4土曜日)のペースで専門家の講師を招いて「ミュージックケア(音楽療法)プログラム」講座を実施しています。参加者は10数人にとどまっていますが、本格的なグループレッスンにより目覚ましく歌唱スキルが向上している仲間も多く、普段の生活でも感情表現が豊かになり、自己肯定感や達成感に繋がるなど少しずつ効果が見られます。毎回の講義にはありがちな堅苦しさはなく、会場の潮騒アディクションビレッジ会館4階の会議室には参加した男性メンバーのハーモニーが漏れ聞こえます。

講師を務めてくれているのは行方市在住の地方演歌歌手、川島有紀さん。栗原センター長75歳バースデイイベント(3月)では、支援者の尽力により特別ゲストとしてステージに花を添えてくれました。川島さんは子供の頃から歌が好きで、唱歌、フォーク、そして演歌へと好みを変え、2008年に県内のカラオケ歌謡大会で入賞してオリジナル曲を頂いたのをきっかけにプロデビュー。これまでにCDを含む数曲を世に出しています。歌謡居酒屋を経営しながら、ピクチャー歌謡音楽研究会認定講師として10年の指導歴を誇り鹿行地域などで幅広く活躍しています。

潮騒ではセンター長の演歌好きもあって、早くからカラオケ機を導入して愛好者が余暇活動で楽しんだり、施設内のイベントでも仲間が自慢の喉を披露しています。

音楽療法に繋がる活動としては、これまで音楽バンド結成や和太鼓に挑み、潮騒の看板活動でもあるエイサー(琉球太鼓)など歌と踊りのパフォーマンスが取り組まれてきました。今回、そうした下地を踏まえ、各地の福祉施設などで積極的に採用されている音楽療法を、施設のミュージックケア・プログラムとして位置付けました。既に4月から講座が持たれ、最初に参加者が好きな曲を歌い、次いで発声や発音の全体練習で基本を押さえ、本番では課題曲を通して具体的な歌謡指導を受けています。

川島さんは「依存症の人達への指導ということへの違和感はまったくありません。潮騒でも若い世代にはリズム感あふれるポップス系の音楽が支持され、年配者には演歌が人気です。世代が幅広いので課題曲の選曲には悩みますが、皆さん上達が早いです。歌い方には人の性格が出るし、体調の良し悪しも分かる。いわば“健康のバロメーター”です。音楽は人に癒しや安らぎを与え、各時代を共有できる“心の薬”でもあります。最近は認知症の予防にも役立つとして、高齢者施設などに普及しています」と話しています。

栗原センター長も「音楽は五感を使った自己表現。自分でも上手くなっていくのが分かるので、人生の楽しさがどんどん膨らむ世界。長い目で見れば依存症の回復にも役立つと思う」と期待をのぞかせています。(潮)

NPO法人・潮騒JTCの平成30年度総会開く

医療連携を深め“疑似家族”を体現できる施設づくり/ 当事者活動と福祉制度が調和する施設運営に努める

NPO法人・潮騒ジョブトレーニングセンターは5月26日午後、鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館4階会議室で平成30年度総会を開き、事務局から提出した前年度の事業報告や同決算、今年度の事業や予算計画の4議案を、出席した理事の皆さんからいずれも異議なく承認していただきました。ありがとうございました。議事に先立ち、今年2月に人生の大きな節目となる後期高齢者の75歳を迎えた栗原豊理事長（センター長）が今後の施設づくりビジョンについてのミニ講話を行いました。

この講話で栗原センター長は、「依存症は病気」という本質よりも「非行や犯罪なのだから罰を与えるべき」という考え方がまだまだ地域には色濃くあり、新たな受け皿づくりの試みは依然として逆風となっていると力説し、時間を掛けて地域理解を得る粘り強い取り組みが必要なことを強調しました。

一方で、福祉行政や病院、家族などからの入寮ニーズは高まるばかり、それも時代の流れで高齢者が一段と多くなり、本来なら潮騒の手にあまる軽度の知的障害や発達障害、心の病を持つような「他に行き場のない」人達をも受け入れざるを得ない状況も打ち明けられました。そのため仲間を“疑似家族”として機能するように

施設内の活動の在り方に配慮を加えたほか、今回、精神科・心療内科クリニックが潮騒アディクションビレッジ会館2階に開院でき、念願だった医療との連携が可能になったことも朗報として報告されました。

その上で、「私達の生き方は過去や未来に囚われずに、今日一日だけはアルコールを飲まない、クスリを使わない、ギャンブルをやらないで過ごすシンプルなもの」「自分たちに必要なものは自分たちの手でつくろう」という当事者活動がその原点にある」との立場を改めて強調しました。これを基本に据えながらも、国の福祉制度に沿う施設づくりとのバランスある施設運営に努力する姿勢に理解を求め、大規模施設のメリットを生かす施設建設ビジョン「潮騒アディクションビレッジ構想」の実現に決意を示しました。（潮）



「マック40周年記念大会」に参加して回復への決意新たに

大きな節目となった「みのわマック40周年記念大会」が6月8日・9日、東京の赤羽会館で行われました。テーマは「のべつたえ」でした。日本ダルクの近藤恒夫さんをはじめダルクメンバーも参加していたのが印象的でした。自分は10年前の11月、今のところ最後となっている精神科病院を退院した後、最初に「みのわマック」につながりました。そのときのことを思い返すと、とても恥ずかしく、そしていとおしく思えます。そこには隙のない鎧をまとった自分がいて、今日の前にいる（病気の重い）潮騒の仲間とダブリます。様々なプログラムを通して多くの仲間が自分の回復に寄り添ってくれたことを、今になって感じます。けれど不正直さと自己中心の欠点を認められない自分は途中スリップをし、どうにもなくなり、山谷マックへと仲間の力を借りて移動しました。しかし病は重く、スリップを繰

り返し、やがて施設を飛び出し、警察のお世話になることとなりました。そして本当にどうにもなくなり、潮騒にたどり着いたのでした。

今回参加させていただいて、とても厳しく優しいそのときのスポンサーに「その時の話は、正直きつかったですが、病気を忘れてはならないこと」、そして「山谷マックの特にご迷惑をおかけしてたSさんのへ埋め合わせを忘れてはならないこと」を仲間の導きで気づかせていただきました。ありがたいことに仲間を許せなくなっていた自分を手放すことができました。マックのミーティング前の序文には「どんなひどい依存者でも正直にさえなれば回復できる」と書かれています。自分も卒業できた訳ではないけれど、10年の月日の中で今両親への埋め合わせができる喜び、プログラムの実践、自分のできる「のべつたえ」に自覚を持つことができました。（とむ）

がーちゃんの 極私的懺悔録

「他人事だと思って…」

その
4

完全なアル中生活に舞い戻り
無意味な毎日が続く

【PRめいた著者プロフィール】

- ❖ アノニマスネーム「ガーゴイル」(36歳/男性)
- ❖ 出身：北関東の田舎町
- ❖ 前職：元詐欺師(自称)のような仕事&元介護福祉士
- ❖ 病歴：鬱病・発達障害・自閉症・
各種依存症(薬物・アルコール・女性・対人関係 ets)



(前回の続き)私はコンビニで究極の選択を迫られた。手持ちには 1000 円しかない。これで酒とメロンパンとタバコを、どうしたら一挙に手にできるか？ 私の頭はパニック。すると私の耳元で悪魔がささやく。「なあに悩む事はない。簡単じゃないか。盗めばいいんだよ」と。悪魔が私の良心を奪った瞬間だった。

私は悪魔のつぶやきに従い、頭の中で計画を練った。まず酒とメロンパンをコートの内ポケットに忍ばせ、そのまま店の外に出る。で、その後何食わぬ顔をして店に戻り、今度はお金を払ってタバコを買う。とてもシンプルな作戦だ。深夜のアルバイトだけに若い店員はどうみてもやる気がない。今がチャンスだ！メロンパンは多少つぶれるが、愛には外見など不要。いざ出陣！

自分を奮い立たせたが、悲しいことに私は元来、小心者だった。私は、三日前に繁華街でパンツ一丁になって中島みゆきの「時代」を歌っていたところ、若いお巡りさんにきつく説教され、拘留やら留置やら物騒なことを言われ、ビビってしまったことを思い出した。すると「やはり犯罪はよくないね」と、我が内なる声がささやいたのだ。小心者の私は、これですっかり正気に戻ってしまった。

結局、酒は300円のミニボトル、タバコは安い三級品のものにして、メロンパンを買って我が家に帰還した。例えば小賢しく突っ張ったところで、私の貧しい現実の前では、「真実の愛」とはたゆまぬ妥協である。買って来たメロンパンもタバコも美味しくなかった。酒も足りなかった。よお～し、こうなったら明日は仕事にいこう。何の脈絡もなく、私はそう思うのだった。

昼間は近所の公園に出掛けて ハトの餌やりが日課に

翌日、私はそそくさと身支度を整え、出社準備に取り掛かった。しかし、玄関で鏡の前に立つと、赤黒く歪んだ顔がそこにあり、自分が置かれている現実にはたとえと気付いた。そうだ、仕事をクビになっていたのだ。私はアルコール依存症が勝手に治ったと思い込み職場復帰したが、やはりまともに仕事ができず、会社から「その酒癖の悪さをなんとかした方がいいよ」と通告され、解雇されていたのだった。

なので介護の仕事辞めてからというもの、昼間は近所の公園に出掛けてハトの餌やりが日課となった。身体中にスナック菓子をまぶしてはハトをまわりつかせ、「一人小林幸子ごっこ」に興じたりしていた。さぞかし周囲には不気味に見えたことだろう。

そう言えば、こんなこともあった。何を血迷ったか、小学校の近くで児童相手に、自作のスケッチブックに描いた猥褻な紙芝居を開帳してしまった。当然ながら通報されて派出所の巡査に、ごっつう怒られた。さらに麻薬を吸っては、5万円以上もする戦艦大和の精密プラモデルを三日三晩掛けて組み立てたり、テレビが私の悪口を言っていると思い込んでゴルフクラブで叩き割ったり…、とまあ好き放題に過ごしたのである。

もともと、これは昼間の話。夜はキャバクラで遊び呆け、平均睡眠時間は3時間ほどで頭が思考停止状態となった。「こりゃあかん、完全にアル中に戻ってもうたわ…」と絶望。アルコール依存症が不思議なところは、病気が自覚できていても目の前に酒が出現すると、抵抗なく

スルッと飲んでしまえることだ。「あんさん。芸人が釘一本、米粒ひとつ作らんと、なあんもせんで遊んで暮らしとるなんて、末路哀れは覚悟の前やで」。こう言ったのは、確かひと昔前の関西の大落語家だった。実に言い得て妙である。

嫌味たっぷりに 「死んでくれてありがとう!」

今更言うのもなんだが、アルコール依存症の最後は、ほんとに哀れだ。肝硬変、ガン、脳卒中、痴呆…、生き残ってもサノヨイヨイ。内科系で死ぬのはまだいい方で、狂死、衰弱死、自殺、孤独死、事故死…。この辺になると周囲にさんざん迷惑をかけた挙句に勝手に死ぬので、周囲の人からは「やっとなんで死んでくれて、ありがとう!」、嫌味たっぷりに感謝される。そこまで卑下されるものを、何故に人は好んで飲むのだろうか?

試しに、水道橋辺りの居酒屋でビールを飲んでるおっさんに、「いずれあなたは肝硬変になって死にますよ。頭がおかしくなって、家族もろとも不幸な暮らしをすることになりますよ。待っているのは家族の不幸、地獄でっせ。できれば飲まん方がいいですよ」そんな御託を並べたらどうだろうか? 多分だれも聞く耳を持たないだろう。むしろ「人が楽しく飲んでいるのに、何の権利があつてオレの至福のときをぶち壊すんだ!」「オマエは新興宗教の勧誘か、どこかの政治結社の構成員か?」「ビールがまずくなる、出て行け!」。怒りに震え、塩を撒かれるのがオチである。

しかし、だ。世の中よくしたもので、アルコールで人生めっちゃめっちゃになる人もいれば、うまく付きあつて夜な夜な妾宅に行つては、ぬる爛で酔ダコを肴に禿げた頭をびしゃびしゃ叩き、「なんとも乙なもんでござんすな」。なんて言いながら妾の太ももを触りつつ、お下品にゲラゲラ笑つて生きている人もいるのである。私には、とんでもなく羨ましい。宮沢賢治よろしく「そういうものに私はなりたい」のである。

肉体的苦痛より 精神的快樂のため読書することに

そういう訳で私は断酒、いや節酒を試みることにした。私自身も以前に地元の精神科病院で、一通り依存症の治療を受けている。でも退院から三ヶ月もしないうちに一升酒を飲むようになり、仕事もしくじった。だから現在は無職。そんな私がなんとか社会生活を送れているのは、有難いことに親の遺産のおかげなのだ。でも2000万円あった預貯金も今や350万円ほどに…、ほぼ水商売代で食い潰している。このペースだと、あと二ヶ月しか持

たない。早く次の仕事を探すか、あるいは失業保険がもらえるまで何とかしのがなければならない。結果、「やっぱ酒控えるしかないよねー」となる訳やね。

まず一日一本飲んでるウイスキーを半分にして、キャバクラは週2回まで。お気に入りのキャバ嬢は寂しがるかもしれないが、ビクナガイになるための第一歩なので、これは「泣いて馬諤を斬る」しかない。あとは自炊。不必要な電気を消す。部屋を片付ける。よし、これでいこう!

しかし、いきなり掃除や節電をやると、さすがに体がついてこないというか、いわゆる横揺れのグルーブ感、ポプマーリーのレゲエのリズム、ラストマンバイブレーション、そういうものが発生しにくい。そうなると、うまくいくものも失敗する。こうした肉体的苦痛をとまなう自己改革を行う前に、私は精神的快樂を得ようと思い、読書することにした。

私はポテトチップス、コンドーム、ティッシュ、中濃ソース、柿の種、靴下、編み上げブーツ、こけしなどゴミが散乱した部屋で、お気に入りの一冊を取り出した。愛読書の京極夏彦作『姑獲鳥(うぶめ)の夏』。色々なお化け、妖怪、民俗学のうんちく満載で、かなり為になるのだが、いかんせん長い。600ページほどの長編である。

結局、事件の取っ掛かりにいくまでに130ページほど読み込まねばならない。さすがの私も少し飽きてしまった。しばらく放り投げていたが、これも良い機会であると、再び読み始めた。飲酒欲求を抑え込む集中力、見事な戦術である。平成の諸葛亮、アル中の白洲次郎、日本の蒋介石、さすが俺。「ウオッホ」と読み始めたのである。すると十分もしないうちに、体がムズムズとしてきて、「何か足りないな」と感じ始めた。

私は「ちょっと体を動かすか」と思い、ツイストダンスを踊るために、ゴミだらけの部屋からホコリの被った「アイワ」のコンボを引っ張り出した。そしてリトルリチャード氏のCDをかけ、ひっくり返るまで踊ったのである。すると不思議なことに「これでウイスキーでも飲んでこましたら、とんでもなく気色が良いかも知らん」。そう、私の中にとんでもない欲求が入ってしまったのである。

そこからが早かった。ウイスキーを一口含むと脳が衝撃で爆裂。ごつつう楽しくなり、リトルリチャード氏の「女はそれを我慢できない」を踊り切る頃には、一日の分量である350ミリリットルを飲み干してしまい、気分は最高潮に達した。私は「ツイストダンスを踊ると、やっぱ喉が乾くよねー」などと、自分以外に誰もいないゴミための部屋で、無意味な言い訳を自分に向けてるしかなかった。(以下次号に続く)

受刑者からの手紙

進級を期待したものの今回は2類への服級はならず

拝啓。若草の緑が眩しい季節と成りましたが、お健やかに過ごしてはいかがでしょうか？ この便りが届く頃は穀雨(こくう)の時期を過ぎているのではないかと、思っています。先日お便りを戴きまして、誠に有難う御座いました。

私は現在の刑務所へと戻って参りましたが、今年はかなり寒い様に思っています。戻って何日かで工場へ出役と成りましたが、1年も過ぎるとかなり変わって居る為、驚いています。それだけ動いていると考えれば大変に良い事だ、と、思っています。私も時期が来れば社会へと戻りますので、それを思うと寂しいと云うより、嬉しさの方が多いです。工場に出役して2週間以上が過ぎましたが、今迄とは多少変わってしまった事が有りますので、多少は戸惑っています。先日、類の進級告知が有りましたが、進級を期待して居た私は2類への服級は有りませんでしたので、残念な結果と成りました。でも、次の10月には進級が出来る様に頑張りたいと思います。

話は変わりますが、最近は潮騒JTCでも余り大きなイベントが行われない様に思います。今年のゴールデンウィーク等の取り組みは何か無いのでしょうか？ 年間を通して色々と在ると思っただけですが、日々忙しいのにイベントを行うと更に忙しくなってしまうので大変なのでしょうね。私も残刑1年と少し位に成りましたので、一日も早く社会復帰して頑張りたい、と、思っています。年内に成るか年明けに成るかは分かりませんが、出来る事は進んで頑張りたいと思いますので、その際は宜しく申し上げます。

今は調理師免許しかありませんので、違う職種の免許を取得出来れば良いと考えて居ります。少しずつ勉強していきそれを実現したいと考えて居ります。ここでも技術の取得を出来る職業訓練は有りますが、今回は申し込み間に間に合わなかったため、次回は出来るかは分かりませんが申し込んでみようと思っています。皆様も体調には気を付け十分に御自愛下さい。

(新潟県 H・K)

1日も早く元に戻れるようにリハビリに頑張っている

前略。センター長、その後、如何お過ごしのことでしょうか？ 毎月、潮騒通信を送付して下さり有難う御座います。先日には、シゲさん(代筆)のお手紙を頂きまして、いつもと同じ様な文面の中に、心温まる思いが伝わって来ました。いつも本当に有難う御座います。

私の残刑が19日に残り1年を切ります。後もう少しで再び潮騒の仲間入りが出来ます。何卒宜しくお願い致します。今回、工場復帰をしてから丁度3週間が経ちますが、自分の身体の方は工場復帰の前と同じ状態です。「ひょっとしてリハビリの効果が無いのか？ リハビリの仕方が良くないのか？」等と、思っています。ちょっとだけ無理をしたかと思えば右腕がまるっきり効かなくなってしまうので、本当に難しいです。完全には元に戻らない事も覚悟しなくてはなりませんが、前進あるのみです。現在、自分に出来る事だけは、しっかりと遣りたいと考えて居りますので、御安心下さい。

現在の私には、字を書く事に大変な時間を要する為、計算工としての最期の仕事を仲間に手伝って貰いながら、本当に皆さんに助けられながら生活をして居ります。毎日、自己の身体と相談をしながら1日も早く元に戻れるようにリハビリを続けていきたいと思っています。

最後に成りますが、日本各地で“真夏日”の記録が出て居る様であります。今年も又とっても暑い「記録的」等と云う言葉を見聞される様な気が致します。どうかくれぐれも御自愛下さい。

(長崎県 O・K)

前号でも述べたように、施設との相性や繋がりや濃密度などに差はあっても、どんな形であれ縁あって「潮騒きょうだい」と呼べる仲間の受刑者が増えているのは、例え細い糸であろうとも施設にとっては“やり直し”が可能となる絆につながるの嬉しいことだと考えます。

一日一日スリップせずに 精進していくのが一番

前略。施設長&シゲさん、返事の手紙と潮騒通信、ありがとうございます。シゲさん、私の残刑も1年を切りました(嬉)。ここではGW明けの5月7日からグラウンドでの運動となったのですが、まだ少し寒いです(泣)。グラウンドから娑婆が見えるので、「あ〜早く帰りたいなあ」と思いながら運動をしています。

話は変わりますが、シゲさんはタバコを吸いますか？ 私は今この懲役でタバコを止めようかどうしようか、考えて居ます。でも、食後の一服は美味しいですね(笑)。薬物もアルコールも禁止なのですから、せめてタバコ位は吸ってもいいのかな、などと考えている今日このごろです。

「油断せずに一日一日を大事にして精進していきます」とシゲさんからの便りにありましたが、本当にそのとおりだと私も思います。一日一日スリップせずに精進していくのが一番ですからね。潮騒JTCのことを、私は「栗原一家」と呼んでいます(笑)。それでは今回の手紙はこのあたりで失礼します。(北海道 O・T)

6月に行われる ソフトボールの練習をしている

拝啓。関東の方は、もう夏に成って居るのではないのでしょうか？ 私の居る地方は、まだまだ涼しい日々が続いて居ります。栗原さんが何一つ変わることもなくお元気にして居られることを信じ、そして私自身も変わることもなく元気に生活して居ることを伝えたく、こうしてペンを走らせて居る所存でございます。

近頃からは、運動が室内から屋外に変わりまして、グラウンドにて6月に行われるソフトボールの練習をして居ます。すっかり体がなまって居ましたので、身体のアチコチが悲鳴を上げて居ます(笑)…。でも体を動かすと云う事自体が良い事だと思いますので、頑張って練習に励んで居ます。栗原さんは、何か体を動かしたりして居ますか？ もっとも栗原さんは、施設の事や裁判のことなどで毎日忙しくして居られると思いますが…。何事も息抜きが必要だと思いますので、どうか頑張り過ぎずに御留意下さいませ。それでは、今日はこのあたりで失礼いたします。どうか体調等崩さないよう、充分御自愛ください。(青森県 F・N)

私も覚醒剤依存症から回復して普通の生活をしたい

栗原さん、お元気ですか？ 私は現在、拘置所内で上告中です。私は今回の懲役で服役は8回目に成ります。今思うと毎回薬物で捕まり、「止めよう、止めよう」と思っていますが、やはり自分自身の力では止められませんでした。いったい何故私は薬物に手を出してしまうのか、内観しています。

今迄一日、一週間、半年、一年かけて考えているのですが、未だに止められず、こうして8回目の服役に至っております。自分自身では答えが出ませんので、栗原さんの所で、みなさまと一緒に力を合わせて止めたいと思いますので、どうか栗原さん、力を貸してください。私が若しも栗原さんの所で生活ができれば、毎日毎日、朝起床してから起きている時間ずっと修行中だと思ひ考えてみたいのです。答えが出たら、私は生まれ変われると思います。もしも答えが出なければ、又同じ過ちの繰り返しの人生を送ることになると思います。残りの人生を、薬物を使うことのない人生にしたいですから、どうか私に力を貸してください。できたら、今回の身元引受人になっていただけないでしょうか？ 栗原さんのご返事を待っております。栗原さん、まだはっきりしませんが、上告で一部執行猶予がもらえたら、私の引受人をお願いいたします。私も、潮騒ジョブトレーニングセンターのみなさまと覚醒剤依存症から回復して、普通の生活をしたいです。(東京都 N・E)

しおさい俳壇

6月のお題

花 菖 蒲

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.53

センター長 栗原 豊

刑務所を出た翌日には「底突き」して鹿島ダルクに向かう

ダルクへの入所を心から決意し、依存症の治療と回復に向けた12のステップの一つ目を受け入れるためには、ほぼ例外なく「底突き」を必要とする。とことんまで「どん底」を見た者だからこそ、「自分が無力であることを認める」ことができるのだ。7度目の出所から数日、酩酊状態で見上げた刑務所と同じような鉄格子の中にいた自分…。今なら、改めて確信できる。「当時、唯一の理解者だった大切な姪を裏切って、たどりついた警察署の留置所が私には本当の“底の底”だった」と。約20日間の拘留を経て、大宮警察署の留置場を出た私を、再度迎えに来たのは姪だった。その姪を身元引受人としてダルクに向かい、治療に専念することを条件に釈放(起訴猶予)となったことを検事から知らされる。いくら病気がなせる業とはいえ、裏切られる形となった姪が再びダルク入所に向けて誘導してくれたのだから、私は彼女には頭が上がらない。それを条件にしてくれた、この時に担当した検事には、できることなら再会して直接、お礼を述べたいと思っているが、まだその願いは叶わないでいる。ともあれ、この時の私は「もう姪の意向には逆らうまい」「あるがままを受け入れよう」というギブアップ宣言の心境になっていた。

「こんな若い娘に、私は何度も救われている。しかも、私の失敗を我が事のように心配し、新たな人生に踏み出すように導いてくれている。もう姪を裏切る訳にはいかない」。そう思うと心に落ち着き生まれ、何か大きな力を感じざるを得なかった。警察署を後にした私は姪の自宅に一泊した後、翌日には市役所で生活保護を申請、福祉担当から「鹿島ダルク」を紹介された。そこには何の知識も地の利もないが、とにかく身を委ねるしかない。その日のうちに姪の車に揺られ、私達二人は群馬、埼玉の両県を経て遠路はるばる茨城県神栖市の鹿島ダルクへ向かった。苦労の末に不案内な鹿島ダルクに着くと、私の子供のような若い責任者からいきなり、新たに千葉県松戸市に開所したばかりの「千葉ダルク」への入寮を促された。私に逆らう理由などない。そのまま姪の車で千葉ダルクへ。3時間近く掛かって到着すると、必要とされた生活用品だけを抱えて車を降り、そのまま群馬に戻る姪の車に手を振って見送った。これが私のダルクでの生活の始まりだった。(次号に続く)

亡き妻の

香りあるごと

花菖蒲

あお

花には菊や薔薇、梔子(くちなし)、柚子などの様に香りのある物と美しいが匂わない物があり、花菖蒲や燕子花(かきつばた)も紫で艶冶ですが匂わない。しかし「紫草のにはへる妹を憎くあらば人妻ゆえに我恋ひめやも」(大海人皇子)の歌の様に紫は高貴の方の衣服で紫匂うとも形容します。花菖蒲に生前の妻の匂いを思う切愛の句です。

特選句

遠き日の

母の着物の

あやめかな

しま

女性の着物柄は四季に連れて、水仙、椿、桜、アヤメ、菊撫子など、また友禅や紬、浴衣など夫々に美しい。あやめは少し大人の艶冶(えんや)を思わせる。綺麗な母であつたのかも、その母を懐かしく偲ぶ句です。

特選句

艚の音の

やがて水尾曳く

花菖蒲

ゆたか

潮来は昔十六島とも言われる洲に家や田畑が点在し、その間をサッパ舟で行き来した。昭和三十年頃、美空ひばりの歌などの宣伝効果で娘船頭さんが人気になり、アヤメ園などが整備され十二橋などと共に観光化した。前川に艚の音が聞こえゆく舟の水尾も広がってくる、嫁入り舟かも。水に映る花菖蒲も水尾にゆれて美しい句です。

特選句

秀逸句

今月の秀逸句

朝靄に

花びら濡るる

あやめかな

ひろ

この水郷潮来は利根川や北浦、霞ヶ浦の
関係で靄(もや)の日が多い。その潮来の朝
靄に濡れた花あやめはしっとりして艶冶で
もある。花は晴れも曇りも雨も夫々に美し
いが、靄にかすむのもまた美しい。

花あやめ

水のゆくえの

明りかな

ユーミン

利根川を始め水郷潮来の水路では水の流
れを見るのは難しい、それだけ広大な平野
でもある。しかし潮の干満時には場所によ
って流れが見える、アヤメの映る潮来前
川の流れも又晴れて明るく美しい句です。

川風に

紫ゆるる

あやめかな

タノ

「潮来出島の真菰の中にあやめ咲くとは
しおらしや」と水戸光圀公が詠われた頃か
ら潮来にあやめは有名になったと伝わる。
出島は今の潮来駅辺りで、真菰(まこも)
の中にあやめが咲いていたのか。川風に揺
れるあやめや菖蒲も美しい句です。

小田原や

菖蒲の色と

海の紺

くそじじ

小田原城本丸東堀には七千株の菖蒲園があ
り、六月には紫陽花(あじさい)祭に合わせ菖蒲
祭もある。花菖蒲の紫も美しいが、天主から眺
める海の沖の紺もまた美しい。六月は梅雨で
曇りがちだが、晴間の小田原の海も夏来る思
いの旅の句です。

かの人を

偲ぶやあやめ

濃むらさき

あべ

あやめは何故アヤメと名付けられたのか
は明確ではなく、花に文目があるからとも、
また奈良時代に中国の渡来女性をあやめと
称したからとも。何れにせよ、なよなよし
た紫の花びらは女性を想う。昔の恋人かも、
また万葉の恋歌も思う句です。

花あやめ

潮来娘の

手漕ぎ舟

みく

潮来前川や十二橋のサツバ舟は昔は生活
用であったが、昭和三十年頃から観光用にも
なつて娘船頭で人気があつたが、今では笠に
頬被りの叔母さんが多い。昔を偲ぶ句です。

佳作

乙女の日憧れいたるあやめかな	まこ
雨の中あやめひとひら咲きにけり	あきら
花あやめどれが一番背比べ	れいこ
咲みちてなよなよきも菖蒲かな	くま
花あやめ雨の中にも咲き乱る	いるか
花札に咲いて密かなあやめかな	なん
あやめより私のほうがきれいだね	アツチャン
潮来野の水路に咲けるあやめかな	みく
晴天に咲いて青々あやめかな	ミニー

花あやめ白と紫咲いてをり	かよこ
朝靄に濡れて咲きたるあやめかな	チャコ
雨の中むらさき濃ゆきあやめかな	めい
美しや潮来水辺の花菖蒲	ヨツチャン
道々はあやめの花の水辺かな	ゆうこ
花あやめ潮来花嫁雨の中	ぴのこ
庭先のあやめスマホの手を止める	ひろ
川風に色のただよふあやめかな	おの
晴天に老婆立ち寄るあやめ園	シゲ

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第18回
最終回

潮騒に繋がり何度かスリップするものの回復への希望が見えてきた

都立の病院で潮騒 JTC の話を聞き、二つ返事で了承した僕は根拠もなく希望を抱きました。しかし、所詮はアル中です。入寮日(2015年3月10日)の4日後には近くのコンビニで缶ビールを2本飲み、平気な顔でデイケアの席に座っていました。まったく酔いもせず、「味わって飲めるじゃん!」「2本でとまったな～」など酒と別れる儀式として、またも正当化の実験をしてました。でも、この2本の缶ビールでとまり、しばらくは潮騒の仲間との生活を続けていました。3ヶ月後位からスタッフ手伝いの役割を担うようになったのですが、「来年はここに居るつもりはないし」「中途半端に加わりたくないし」「俺はこいつらとは違う」的な自我がたまらなく出てきていました。仲間の送迎運転のために自動車教習所に通えるようになった10月半ば、ひょっこりスリップしてしまいました。只々ウイスキーが飲みたかったのです。そのスリップで教習所を保留にされ、県内の病院へ入院。「自力で止められると思ったのに…」と嘆きながらも院外での飲酒を7,8回繰り返しました。病的酒飲みとして6か所目、通算11回目の入院でした。自分がほんとに嫌になりながらも、11月末には退院。12月中には“隠れ酒”をちょこちょこしていました(でもばれてた?)が、スタッフや仲間たちはそれとなく注意や警告と共に温かく見守ってくれていました。

2016年が明けて間もなく、僕は初めて本気でスポンサーシップをとりたいと思い、千葉の先行く仲間(恵一郎さん)にお願いました。時折おつかない顔に見えながらも、語りかけるトーンや仕草、暖かさ等を感じていたのです。快く「OK」を頂いてからは、ステップをゴリ押しするわけでもなく、飲むなどとも言わず、ただ「生まれてきてからのことをノートに一行一行少しずつ書いてごらん」「ブーちゃんの大変さも経験上わかるな」「俺のほうがぶつ壊れたよ!」など潮騒アディクションセミナーの際には、程よい距離感で接してくれます。「この人のように回復したい!」との思いが僕のなかに生まれ、それには「今日一日潮騒の仲間が必要なんだ」と感じています。

月に一度の潮騒家族会には母が参加してくれて、たまにお茶をします。大人になってからも振り回し続け、迷惑をかけ続け、傷付けてきたにもかかわらず、母の愛には脱帽です。夜間の高校にも通わせていただき、今年で二次次になりました。今まであり得なかったことを、センター長やケースワーカー、そして生きていく支えの仲間のお陰でできています。仲間のなかで、福祉系(ぶつちやけ児童福祉)の資格を目標とし、手話を動画で見たり、仲間とのプログラムを今日一日楽しむことができて、僕を産んでくれた母と生まれてきてくれた娘(12歳)、そして潮騒 JTC と仲間達に感謝しています。1年半のご愛読ありがとうございました。

終わり

6月のバースデー

とむ
しげ。
愛してる。まっきー
とくになし...えび
えびちゃん
でーす!とん
事情より...かく
ありがとう、
これからも
よろしく。じゅん
...たくや
クリーンで
頑張ります。こうそう
がんばり
ます。じゅんじ
おかげさ
ます。

6月の行事

- 6月8日 潮騒フラワーロード除草&花植え
- 6月8・9日 みのわマック40周年記念大会(東京)
- 6月8・9日 潮騒エイサー隊 仙台慰問弾丸ツアー
- 6月9日 第3回潮騒人間塾(講師・白田美鶴さん)
- 6月10・16日 秋元病院メッセージ
- 6月14日 潮騒俳句会
- 6月21日 筑波大医学部生来所研修
- 6月24日 潮騒家族会
- 6月28日 茨城県立藤代高校薬物乱用防止講演

7月の行事予定

- 7月7日 第35回鹿嶋市海岸一斉清掃活動参加
- 7月8日 2018ピアサポ祭り(第14回、東京都内)
ひたちなか市内地域団体現地メッセージ
- 7月8・21日 秋元病院メッセージ
- 7月12日 第4回潮騒人間塾(講師・加納淳子さん)
※淳子さんは栗原センター長の長女
- 7月12日 潮騒俳句会
- 7月20日 茨城県立坂東総合高校薬物乱用防止講演
- 7月22日 茨城ダルク26周年フォーラム
- 7月28日 美空野(みその)保育園夕涼み会支援活動
- 7月29日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方(6月15日現在)

- ・長谷川 トキ子 様 ・白井 美代子 様 ・内堀 高良 様
- ・高橋 清太郎 様 ・海老根 遼太郎 様 ・中込 良夫 様
- ・松嶋 允子 様 ・鈴木浩二郎 様 ・市毛勝美 様
- ・勝間春江 様 ・マスコ測量 代表 増古富士男 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

6月は寝不足な日々が続いた。言うまでもなくFIFAワールドカップ(W杯)サッカー・ロシア大会の、予選リーグの好試合があったからである。これを書いているのは、まだ決勝トーナメント1回戦の途中段階(ベスト8をめぐる戦いの最中)なので、どの国が勝利するのかは予断を許さない。事前の悲観的な予想をくつがえし、我が日本代表チームは健闘して決勝トーナメントに進出した。そして迎えた強豪国ベルギーとの熱戦は、W杯史に残る名勝負との声も聞かれた。あとほんの数秒で延長戦に突入か、と思われたがベルギーが世界レベルの凄さと底力を見せつけた。眠い目をこすりながら未明に起きたことの苦労はあったけれど、個人的にはあの一戦で元を取った感じだ。まさしくサッカー(スポーツ)には人生ドラマのような要素があると思い知らされた。で、ここからは依存症との絡みで W 杯を考えたい。本号の潮騒人間塾の記事で、講師の白田美鶴さんはアスリートたちの極限に挑む姿勢に敬意を表しながらも、普通の人の生き方としては「ほどほど」で生きられる社会の方が望ましい、と貴重な提言をしてくれた。競争社会において勝者はほんのひと握りにすぎない。頂点に到達するには、結果的に多くの強敵(ライバル)と闘わなくては行けないし、そのためには与えられた天才の能力により厳しい練習を課して、スーパーマンのような存在にまで自分を高める必要がある。そうして、多くの強敵を打ち負かさなければならない。ある部分では運を味方にするのも大事だろう。どうあがいても我々凡人には手の届かない高みの世界だからこそ、あこがれの対象となる。それはそれでいいのだと思う。実は依存症の施設にも、スポーツ競争で高みを目指し「いいところ」まで行きながら叶わず、階段を踏み外した仲間が結構いる。では、競争社会(パワーゲーム) から下りることによって回復の手がかりが得られるとされるアディクトにとっては、その対極にあるアスリートの世界から学ぶべきことはないのだろうか? アディクトならずとも社会で生きていくには「あと一歩の頑張り」が求められる場面が必ずある。僕は根性論者? ではないけれど、ここで「ほどほどでいい」と諦めるのではなく、「もう少し頑張ろう!」というひたむきが光明をもたらすことは十分にあり得ると考える。自分の怠惰やヤル気のなさを正当化する理由に「ほどほどでいい」を利用しているうちは、回復は先の話のように思える。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2018年6月

Contents

- P② 自己表現は心を豊かにしてくれる
- P③ 潮騒人間塾 白田美鶴さん(詩人、NPO法人潮騒 JTC 理事)
～人間は、ほどほどで生きていける方がいい
人生は奪い合いよりも与え合いで
- P④ 潮騒エイサー隊「仙台慰問弾丸ツアー」
- P⑥ 潮騒ミュージックケア
- P⑦ NPO法人・潮騒 JTC の平成30年度総会開く
「マック40周年記念大会」に参加して回復への決意新たに
- P⑧ がーちゃんの極私的懺悔録 その4
～完全なアル中生活に舞い戻り無意味な毎日が続く
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇 6月のお題「花菖蒲」
- P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」/ 6月のパースティ
- P⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次



■ 編集・発行:

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
(潮騒アディクション・ケアセンター)
〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5
TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

